

CELLISSIMO

http://kobe-cello.com

第4回「チェロアンサンブル」コンテスト in かさおか 大報告

実行委員を代表して

チェロアンサンブル・コンテストは、2002年に笠岡チェロフェスティバルの一環として行なわれたことがきっかけとなつて、2004年に1回目の「チェロアンサンブル・コンテスト in かさおか」が開催されました。その第4回目となるコンテストが、笠岡市保健センター「ギヤラクシーホール」において、5月18日(日)午後2時から開催されました。

参加は、4回連続参加で第1回目と第3回目に第1位・第2回目第2位の「チェロアンサンブル#&b」(神戸)、4回連続参加で第1回目・第2回目ともに第3位の「Ensemble Cellerie」(福岡)、4回連続参加で前回第3位の地元の「閑人会」(笠岡)、前回は不参加でしたが第1回目第2位で過去3回参加の「大分軍団」(大分)、今回新たに参加のバロックアズ(兵庫)、チェロのゆかいな仲間たち(福山)、デュオMK(宮崎)の計7団体48名でした。今回も、審査委員長に松下修也先生をお迎えしての審査の結果、上位3団体が接戦を演じ、ご覧の結果となりました。

コンテスト前日は、午後1時から同ホールでリハーサルを行ない、午後6時から松下修也先生を囲んで有志による懇親会を開催しました。

コンテスト終了後は、上位4団体の表彰の後、審査委員長の松下修也先生から詳しい講評をいただき、第1位団体による受賞記念演奏も行なわれました。

前回同様、コンテスト終了後表彰までの約30分間自由参加による即興演奏であるチェロアンサンブル・サロンも舞台の前で行なわれました。

その後、審査委員の松下先生、江島先生と松本理事長をはじめコンテスト参加者や関係者が一緒になって打ち上げを行ない、今後も、「10000チェロ」のない年には毎年5月の第3日曜日に開催することを決定し、松下修也先生にも引き続き審査委員長就任のご快諾をいただいております。当然、来年も開催を予定しています。また、前回から主催に加わっていただいた地元のCATVである「笠岡放送」によるテレビ放映も決定しています。次回も、新たな参加団体が増えることを願っています。ふるってご参加ください。

中村幸太郎 《No.010074》

審査員として参加して

笠岡でのチェロアンサンブルコンテスト、同市在住の中村幸太郎理事ご一家あげての熱意とご尽力で地方都市で4回目の開催となりました。前回は仕事の都合で参加できませんでしたが、今回は演奏者としてではなく、審査員として参加させていただきました。

14時定刻にトップバッター、地元岡山「閑人会」からスタートしました。演奏者全員が並んで礼をしようとしていますが6番あたりのチェロ奏者がまだ舞台上に上がっていません。奏者が多く、一列に円陣で演奏したためか、アンサンブルのリズムが上手と下手で少しずれたりしてしまいました。でも高音・低音ともにソロはうまくいった。

次に3位を勝ち取った福岡「Ensemble Cellerie」。8人全員が妙齢の美人ぞろい。一際ギヤラクシーの目を引いていたグループの登場。音程・ハーモニーに多少の難があつたりタンゴのリズムになれなかつたりはしましたが、ダブルカルテットで内側に核になる4人を配置しての演奏は功を奏しました。また、ソリストも良かった。

続いて初参加の宮崎「デュオMK」。2曲演奏されましたが、曲の変わり目がわかりませんでした。デュオアンサンブルとしても少し合わせて欲しかったし、ダイナミックスのメリハリも少なかつたと思います。

次は初出演、地元福山「チェロの愉快な仲間たち」。8人とまとまったグループでカラフルなTシャツが目を引きました。トップの方だけががんばっておられましたが、他の方々は弾くのには精一杯という感じでアンサンブルまでの余裕がなかつたように思いました。

連続出場の大分から「大分軍団」。レスピーギの「シチリアーノ」がなんだか華送進行曲のようなテンポで始まりました。でも音程も過去の大分軍団からは想像できないほどの出来で、アンサンブルとしても十分に聴かせてくれました。「カルメン」も早いテンポの曲をよくあそびで仕上げたと感じました。審査委員長も「シチリアーノ」のテンポさえ良ければ1位だったかも、と述べられるほど、大分軍団のアンサンブルは向上しました。2位はご立派です。3回目の出場で毎回順位を上げ、とうとう2位を獲得しましたね。今度

はぜひ1位を目指してアンサンブル練習を重ねてください。

初参加で福岡在住助っ人とともに呉「バロックアズ」優勝おめでとう!! 審査委員長が審査室で開口一番「あのヴィヴァルディは良かった」と言わしめたデュオ。難曲でしかもデュオとしてのアンサンブルバランスを保つての演奏に3人の審査員は全員一致で1位を決定しました。本当におめでとう!!

最後はお馴染み毎回出場の神戸「#&b」。毎回聴くのが楽しみな選曲に今年は偶然に大分軍団と同じ「カルメン」。審査員一致で堂々2位を大分軍団と分けました。速いテンポでの高音域演奏については誰しもが認めるナンバーワン、ハバネラのメロディも思わず会場から舞台上に駆け上がりたくなるほどの艶めかしさを表現、文句なく演奏技術・アンサンブルではトップ。ただこれだけのレベルでありながらメンバー交代のせいか、音程の乱れや音の美しさへの配慮が少し欠けていたのが残念でした。ハイテクニク・ハイテンポを弾く技巧も大切で素晴らしいことだと思いますが、美しく響かせるアンサンブルの妙味をぜひ向上させてください。前夜の打ち上げから参加していただき、盛り上がったようです。ありがとうございます。

今回のコンテストには参加者誰しもが「演奏・アンサンブルのレベル上がった」と会場の外で話しておられました。このことは松下修也先生もそのように言っておられました。私が10年前に初めて10000人のチェロを計画した時に10000人規模のアンサンブルに技術と練習は欠かせないものと思ひ、「公式練習に4回参加」を義務付けました。笠岡のアンサンブルコンテストも「参加することへの意義」から「参加して少しでも聴いている人を楽しませる演奏」ができるような出場者での競い合いになっていただることを願います。

審査委員長を務めてくださいました松下先生、審査員の江島先生には貴重なお時間を費やしてくださり、遠路をありがとうございます。毎回ですが中村理事ご一家といかさまの皆様には心からの感謝と御礼を申し上げます。そして最後に全国から参加していただきましたチェリストとチェロファンの皆様にも御礼を申し上げます。

松本巧 (国際チェロアンサンブル協会事務局長)



第4回 チェロ アンサンブル コンテスト inかさおか 参加チームの声



1位 呉パロッカーズ

1回目より大変興味が有り、念願叶っての参加でしたが、思いもかけない1位という賞をいただき、とても嬉しい反面、恐縮に思っております。と言いますのも、私は地元ならではのアンサンブルに参加したい(まだ存在していないので寂しい)と思っていますが、このコンテストに参加することによって、各地の参加者皆様の奏でるチェロ独特の厚重な音色と、個々それぞれのパートの役割感(かなり重要)など、心一つにした演奏が「目の前で生で」聴ける〜、という醍醐味を実感して、参考にさせていただき良かったです。実際にそうでした。

「チェロ」という何とも不思議な楽器に携わる一人として、チェロアンサンブルほど本当に贅沢な「音楽」はないと実感した2日間でした。参加者の皆様、そして審査員の先生(3名)方、ありがとうございました。感謝申し上げます。私にとって、とても、と〜〜〜でも楽しい2日間でした。「オンガク」とは、音が苦と書いても「オンガク」ですが、音が楽しいと書いて「オンガク」であることが楽しいですよ。(呉パロッカーズ: 乗本 幸)

片道6時間かけて、はるばる行ってまいりました。数多の強豪を押しつけて、なんと第2位! ほんとかな? と思わないでもないけれど、まあ努力賞ということで。みんなで心一つにして、直前まで本当によくがんばりましたから。

アンサンブルはコワイけれど本当におもしろい。1×8が、100にも200にもなります。みんなと一緒に参加させてもらえて心から感謝です。そして、他のチームの演奏や練習風景を見せていただき、改めてがんばろうというパワーを一杯いただきました。

前夜祭では松下先生とゆっくりお話することができて、飲み会なのいろいろと教えていただきました。「繰り返し練習に敵うものなし!」

松下先生ですらこんなふうにしてらっしゃるなんて! これからの座右の銘にします。そして脱力の大切さ。肩と腕は力まない。意識するのは肩甲骨。

さて、今回は「てんでん」で大騒ぎしたあと、925の部屋、1553の部屋に続く第3弾、「456(ジゴロ)の部屋」で美味しいワインとザッツハルトの夕べがありました。(元1553さん、いつもありがとうございます!) デザートワインって今までそんなに食指が動かなかったけれど、ザッツハルトと合わせるのはいっぱい甘い白ワインが一番。何事も相性があるんですね。

翌日は9時半からホールリハでしたが、終わってからもみんなでずっと合っていました。「やろう、やろう」って言い合ったわけではないのに、なんとなくみんな集まって練習を始めてしまいました。でも、これがすごく良かった。どんどん息があってきたし、

みるみる曲が変わって行きました。

だからこそ、いつもはそんなに緊張しないのに、私は今回ものすごくあがってしまった。本番直前でブラックホールは無くすし。(帰ってから、旅行鞆の一番奥から出てきた。なぜ?) 半徹夜して作った楽譜カバーも、なんと楽譜も、どこかに忘れてきてしまいました。放心状態だったんですね…

何にしても楽しい2日間でした。帰りも6時間、車に酔うといけなと思って酔い止めをもらって飲んだら、効き過ぎて月曜の夕方までラリってしまいましたけど、もう元気です。また今週末笠岡に行ってもいいくらい!

お世話してくださった閑人会のみなさん、心のこもったおもてなし、ありがとうございました。参加者の皆様も、楽しい時間をありがとうございました。

また来年お会いしましょう!!! あ、それまで待てないという方は、打ち上げにいらしてくださいもいいですよ、大歓迎。最低でも4〜5回はあるだろうという風のうちさだから…。コワイ。

(大分軍団: 馬場 良子)

今回は、私にとって第2回に続き、2度目のチェロアンサンブルコンテストの参加でした。今年も、前日の懇親会メインで笠岡にのりこみました。前日の懇親会ではいつもの如く賑やかに飲んで楽しませて頂きました。懇親会参加者のみなさん、お騒がせしました。

前日の賑やかさが嘘のように、本番当日は重苦しい空気が大分

軍団に流れていました。自分の演奏が煩くなる人、二日酔いの人など。ちなみに私は後者でした。

さて、本番です。珍しく直前までロビーで練習した大分軍団。さてその結果は…見事2位でした。個人的にはまだまだでしたが、大分軍団の溢れんばかりの愛が伝わった結果でしょうか。アンサンブルの楽しさがちょっとずつわかってきたような気がします。

我が大分軍団の団長いわく、軍団はこれからもいろいろな意味で進化していくそうです。お楽しみに。愛を感じたい方はぜひ大分へお越しください。次回も笠岡で楽しく飲みましょう。いえ、アンサンブルしましょう。

(大分軍団: 石橋 和子)



2位 大分軍団



3位 福岡 Ensemble Cestelle

Ensemble Cestelleが結成されて、このコンテストには毎回参加させていただいています。私は4度目だったので、さすがにもう緊張はしないはず…と思いきや、やはりあのステージに上がると緊張してしまうのです。しかし、今回の私たちの曲は、前からずっと弾きたいと願っていたタンゴ。楽しまなくちゃならない! と思い、いつもとは違う緊張感で演奏しました。結果発表では入賞させていただき、さらに松下先生の講評を直接いただくことができ、とてもうれしかったです。

また、笠岡での楽しみは、他の団体のみなさんの演奏を聴くこと。聴いて何かを学ぶこと。中でも私は「#&b」さんの演奏が、毎回楽しみで楽しみで仕方ありません。今回は、ドキドキするほど情熱的なカルメンを演奏され、勉強するどころかうっとり聴き入ってしまいました。今回学んだことは、聴衆を抱きかかえたい演奏をすること。松下先生も、勉強をつけることはとても大事だとおっしゃっていました。

楽しい時間はあっという間に終わり、コンテスト後の打ち上げも途中までしかいられなかった私たちが、帰りの新幹線の中でメンバーの一人から「私、結婚します」との報告があり、最後まで興奮しっぱなしのEnsemble Cestelleでした。

(Ensemble Cestelle: 仲村 彩香)

前回までベルロステとして参加しましたが、今回は初めてEnsemble Cestelleとして参加させていただきました。

前回までは自分のパートを楽譜通りに弾くことで精一杯で、曲のイメージやどう表現したいかなどあまり考えていませんでした。今回は楽譜通りに弾くことはもちろんのこと、どういう音で弾きたいか、どうすればタンゴになるかなど考えました。ちゃんと考えたのでイメージはしっかり浮かび、頭の中では理想の音が流れるようになりました。でも、実際に自分が弾いてみると出てくる音は理想とはかけ離れたものばかり…。自分の技術のなさに改めてがっかりしました。しかし技術は一朝一夕に得られるものではないので、せめて気持ちだけでも曲にのせよう、皆と呼吸を合わせてアンサンブルをしようと思い、本番に臨みました。

本番は思い通りに表現できないもどかしさを感じつつも、とても楽しんで弾くことができました。3曲のうち2曲目は自分は休みだったので、それを忘れて皆が2曲目の準備をする中、私一人3曲目の準備をして弓も弦の上に構えていました。皆が呼吸をして弾き始める瞬間、呼吸の仕方が違うことに気づいたと同時に自分が休みだったことにも気づき大失敗を免れました。呼吸を合わせることの大切さをものすごく実感するとともに、それを意識できるようになった自分を嬉しく感じた瞬間でした。アンサンブルの魅力をもっと感じられるよう、これからもコツコツと練習を重ねていきたいと思えます。

最後になりましたが、今回も笠岡の方々には大変お世話になりました。素敵な時間を作ってください、本当にありがとうございました。

(Ensemble Cestelle: 大垣 藍)



2位 神戸 # & b

美味しかった〜!!

これから3日くらいは松下先生ご講評の「音程、ヴィブラート、音楽の進行感」を肝に銘じようと勤めますが、週末に皆で3小節も弾くともうフツ飛んでるでしょうね。

乗本一背戸ベアのデュオは徐々にホンマにエエもんを聴かせてもらいました。閑人会も脱皮されましたね。聖子先生はレーヌ・ファッションを彷彿とさせる…体型に成長されてましたし、いつもの皆さんに検診のように一度お会いできるのも、本当にありがたく思います。

開催が1ヵ月早まって、それを不出来の言い訳にするより、いつもの湿気が少なかったのが何より爽やかでした。笠岡の皆様のもますのび発展をお祈りしています。

(# & b: 井上 ほか)



岡山 閑人会



宮崎 デュオ MK

2月に大分で1000チェロの皆様にお会いしたのが縁で、宮崎市から初参加させていただきました。デュオの相棒、松江さん(倉敷市)は10年ほど前、延岡在勤時に一緒に弦楽アンサンブルを立ち上げたりしていた旧友です。合わせられるのは本番前日と当日のステージ練習のみ。本番では、まあ何とか噛み合って演奏することができたように思います。

今回一番の収穫は前夜祭!と申し上げたら怒られそうですが、チェロを媒介に素晴らしい仲間と出会うことができました。瀬戸内海の肴と美味しい酒にすっかりハマを外してしまいました(ちょっと飲み過ぎ、本番当日のエネルギーレベルがダウンしていたかも)。次回は、できれば宮崎軍団で参上してみたいと画策中です。…あ、衣装にもちょっと気を遣わなければ。中村さんをはじめ、岡山の皆様、お世話になりました。

(デュオ MK: 桑田 芳幸)



福山「チェロの愉快な仲間たち」

楽しいコンテストでした。ありがとうございました。感想をみんなに聞いたところ、「初参加ですがとても楽しく弾きました。今後の課題や助言もいただいたので、練習の励みになります。みんなと心合わせてステップアップしていきたいです」と、まとまりました。よろしくお願ひします。

(チェロのゆかいな仲間たち: 木村 直子)

独善的選出10曲

入手しやすいチェロアンサンブル

part1

チェロアンサンブルを日常的に楽しんでいる本会員の皆様にとって、この記事は目新しいことではないかもしれませんが、今回の編集を担当する機会をいただいたので、1000チェロであまり取り上げていない名曲を次の観点より選び、今号と次号の2回に分けて掲載します。これからの選曲のご参考になれば幸いです。(寺田義彦)

- ・最大Vc8声部まで。他楽器も含む編成もあるが、複雑ではないこと。
- ・取り組んで練習を積み重ねれば(それなりに)効果が期待できること。
- ・参考になる音源(演奏販売CDやインターネット上でMIDIファイルなど公開)が手に入りやすいこと。
- ・大手輸入楽譜販売店やインターネット上の楽譜取扱店で比較的購入しやすいこと。

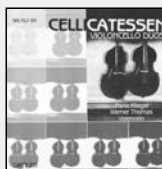
1. 二つのチェロのためのソナタ(バリエール)

Sonata for two cellos in G major (J.Barriere)

International Music Company, No.2209

内容 2Vc編成。近年、ヨーヨー・マ&ボビー・マクファーレンのアルバム「ハッシュ」で第3楽章が有名になりました。堂々とした第1楽章とカデンツァのような第2楽章も十分楽しめます。

難易度 第1Vc第2Vcともに第6ポジションまでで演奏可能です。
参考音源 最近の録音ではスイスのデメンガ兄弟のCDがあります。ここでは本協会に縁深いマリア・クレーゲル&ウェルナー・トーマス・ミフネの若かりし頃の録音“CELLICATESSEN”(独 signum :SIG X12-00)をご紹介します。



2. 二つのチェロのためのソナタ(モーツァルト)

Sonata for two cellos, K292 (W.A.Mozart)

International Music Company, No.850

Edition Breitkopf 6599

内容 2Vc編成。オリジナルはモーツァルトがファゴット愛好家の男爵に捧げた「ファゴットとチェロのためのソナタ 変ロ長調」です。第1Vcのみが活躍? いえいえ、2声がしっかりお互いを補い、モーツァルト音楽の奥深さに浸れます。第2楽章だけでも珠玉の一品であり、感動します。

難易度 第1Vc第2Vcともに第4ポジションまでで結構、右手に関してはスピッカートで演奏できることが条件です。

参考音源 チェロとバスの組み合わせのDuo Rossini, il seconda”(独 ambitus: amb 97 886) がハ長調に移調録音しております。CDプレイヤーの機能により、ピッチを半音下げと一緒に演奏できます。



3. 三つのチェロのためのディヴェルティメント(ハイdn)

Divertimento for three cellos in D major (J.Haydn)

Edition Kunzelmann, GM113

内容 3Vc編成。オリジナルはバリトンと呼ばれた弦楽器とチェロやヴィオラとの合奏曲用に書かれました。その中からチェリストのピアテゴルスキーは、チェロとピアノ用の小品として編曲しております。



難易度 第1Vcは親指のポジション、第2Vcは第7ポジション、第3Vcは第4ポジションまでで十分です。3声だけですが各声部の人員が多いほどシンフォニックな香りが漂い(?)、満足感が得られます。

参考音源 第1楽章と第4楽章しか録音されていませんが、お勧めのCDはベルリン・フィルの「12人のチェロ奏者たち」による“KAMMERMUSIK”(独 GRAMMOPHON : 439 621-2)です。第1楽章前半の繰り返し前4小節間をピチカートに変更しています。洒落な響きで、つい真似したくなります。

4. 歌劇魔笛より、僧侶たちの合唱「おおいシスとオシリスの神よ、なんとという喜び!」(モーツァルト)

Chor der Priester - O, Isis und Osiris, welche Wonne! (W.A.Mozart)

“Twelve pieces for Four violoncellos, Instrumentation and edited by Franz Beyer” Basso Amadeus, BP2093

内容 4Vc編成。魔笛の第2幕、ザラストロの神殿で僧侶たちの合唱をアレンジ。とても短いので演奏会の箸休め(耳休め?)にどうぞ。

難易度 第1Vcが第4ポジションまで、他は第1ポジションでも演奏可能です。

参考音源 ありません。オリジナルをご参考にしてください。



5. 献呈讃歌(グリユツマツヒャー)

Consecration Hymn Op.65 (F.Grützmaier)

International Music Company, No.2460

内容 4Vc編成。エチュードやポッケリ二の変ロ長調協奏曲でお世話になっている大先生の作品ですが、意外にしつこくありません。中間部のL' istesso tempo よりいかに情熱的な演奏できるかが成功の鍵と言えます。

難易度 第1Vcはハ長調4オクターブの音階が弾ければ十分です。第2Vcは第6ポジション、第3Vcは第4、第4Vcは第1ポジションでも可能です(推奨は第4ポジション)。

参考音源 ロンドン・モーツァルト・プレイヤーの4人のチェリストによる“Petits Fours”(英 Cello Classics : CC1007)を推薦します。ハンガリアン・チェロ・オーケストラ(12名)による同演奏が入った“AUBADE”(HUNGAROTON : HCD 32238)も良いのですが、CDジャケットの趣味が悪すぎます。



「Weinsheimer 氏所蔵の銘器」 販売の予告

「1000人のチェロ・コンサート」生みの親で「ベルリン・フィルハーモニー 12人のチェロ奏者たち」の創始者でもあるR.Weinsheimer氏(76歳)が、資産整理に約40年愛用していた銘器「ルジェーリ: Francesco Rugeri 1695」を売却したい意向です。次号で写真・鑑定証明書・その他詳細をお伝えします。

NPO 会員(3年以上在籍)には 300,000Euro(約 5,000万円)、非会員に 305,000Euro(約 5,080万円)、いずれも税別での譲渡価格予定です。NPOは仲立ちをしますが、譲渡売買には直接関与しません。

なお、ご参考までに市場実勢取引額は約 400,000 ~ 500,000Euro(約 6,600 ~ 8,300万円) だそうです。

ご照会は事務局長/松本まで願います。

第4回「1000人のチェロ・コンサート」開催の予告

1998年を最初に過去3回神戸で開催してきました「1000人のチェロ・コンサート」を、その目的の一つである「世界平和への願い」を広島の地からチェロを奏することで発信したいと思えます。

開催時期は2010年5~6月を計画しています。日程・場所などについては次号でご案内できるかと思います。皆様には知り合いのチェリストの方々に呼びかけていただき、なんとか1000人で世界へ平和を発信しようではありませんか? 今から予定に入れておいてくださるようお願いいたします。

New Face

桜井万利子(神奈川県在住 No.010519)



きっかけは、ミッシェル・マイスキーのコンサートで、チェロの音色の虜になりました。早速、学オケでチェロを弾いていた友人にすると、「ヴァイオリンよりも音は出しやすいから、手元であれば自習もできるよ」とありがたいご意見。それでは、と安い輸入楽器を購入しました。それまで弦楽器に触れたこともなく、弓や弦を別に選ぶことも知らず、その目背負って帰るためのケース代も含め結構なお買い物になったそのチェロを、家まで持ち帰るのは大仕事でした。

旧友の助言とは裏腹に、教則本をみて調弦してもまったく合わず、ちっとも弾けるようにならず、可愛想な楽器は1年半も納戸で寝ているハメになりました。その後、介護のために休職した時、忙しさにまかして自分自身の心の拠り所をなくしている事に気づき、一大決心をしました。『チェロを習おう!』あちこち探してやっと、歩ける範囲に(だって、アレを持って乗り物に乗るなんて当時は考えられないことでした) 最良の師を発見し、拝み倒して入門し、なんとか曲が弾けるようになりました。

今だに1stポジションがパッと取れない情けない状態ですが、チェロを通して新しい友人もでき、電車にも乗れるようになり、無謀にも第2回1000チェロ大会に参加させていただきました。第3回の時は思いきって一週間の休みをとり、どっぷりとチェロに漬かる至福の時を過ごしました。そして、それまでも感じていたことですが、ロストロポーヴィチ師の「マイフレンド」という指揮台からの声に皆の心が一つになった時、「平和と音楽には言葉の壁はないんだ」と確信しました。阪神大震災を機に始まった1000チェロが、その後も各地で慰霊と復興への活動を行なっていることは、参加できない者にも誇りを与えてくれます。今後、広島での開催が予定されると聞き、世界へ平和を発信するチェロの響きに、今から思いを募らせています。

Face Talk No.4 石岡三洋



「チェロとの出会いとそれから」

まず、今回の岩手・宮城内陸地震から2週間、亡くなられた方々、被災された方々にお見舞い申し上げます。昭和35年府中高校入学と同時に先輩たちにより音楽教室に拉致されたことに始まります。中学時代に野球をしていたので、野球部からのお誘いで入学までの1週間、練習にまで参加していたので野球部に入る予定でしたが、入学式の直後に拉致され、理不尽にも入部の確約までさせられました。

この年、新卒の音楽教諭「早志幸是」先生が着任。「三年でオーケストラを作る!」と豪語されていた後に聞きました。事実私が卒業の年には立派なオーケストラができあがっていました。早志先生は15年間の府中高校勤務の後、新設の安芸府中高校、広島大学付属高校と転勤され、いずれの高校にも立派なオーケストラが育っていますか。広大附属高校に職中病気で倒れられ、今も闘病中です。

入学早々チェロがあてがわれましたが、その頃はオーケストラとは呼べない楽器編成でした。特にヴィオラは1本もない有様、それが3年後には立派なオーケストラになった陰には早志先生の学校内外への勢力の働き掛けで徐々に楽器が揃い始めました。そんな経験が後にOBオーケストラ結成に役立つと思っております。

20歳の時交通事故に遭い、以後の5年間が空白(記憶喪失)です。我を取戻して数年後、総楽器OBを集めて総楽アンサンブルを結成、後に管楽器のアンサンブルを作りそれぞれ活動をする。その後合体しOBオーケストラが誕生。現在は市民オーケストラに発展活動中です。

仕事の関係で生まれ育った広島県府中市を離れ、岡山県井原市に移り住み、当地の総楽アンサンブルに籍を置き活動。その後当会理事中村氏と笠岡市に本拠を移し、アニマート・アンサンブルを結成。活動中に阪神淡路大震災発生。何かの記事で「神戸の紳士の呼びかけで震災復興のため1000人のチェロ・コンサートを…」は知っていたのですが、もちろんプロ中心のコンサートだろうと思っていましたが、ある日の読売新聞に「今555人!…」と言う見出しで1000チェロの紹介記事で、アマチュア中心とのこと。早速中村氏に電話し一緒に応募!届いた番号が「408」「えっ?」取材した時が555人なら今から応募すれば600番代だと思っていたのだが…。

第1回目の1000チェロの感動は下手な説明より全国にできたチェロ・サークルの数でご想像いただきたい。私たちの関人会もその一つ。広島からの参加者を中心に結成されたグループですが、会長が海外転勤されたりして活動が下火になっていたので我が引き継いで笠岡を中心に活動しています。活動のメインは何と言っても「アンサンブルコンテスト」です。

高校の頃、ストッパーと言えば蒲鉾板に紐を通したものでしたが、何かしら物を作るのが好きな私はチェロのミニチュアストッパー(造りは本物と同じでバスパーや魂柱も入れてありますし、指板やベグ、テールピースなどは黒檀製)を作っていました。すでに何人かの人にはお誕生日プレゼントとして贈っていますが、バックオーダーも抱えていて、日々の練習などとの兼ねあいで中々捗りません。一つ悔しいことは、第2回1000チェロの折、故高円宮殿下から「石岡さん、ケース付で1台お願いします!」と仰られ、期限なしに条件にお受けすることに

会員番号順にメンバーを紹介する「Face Talk」No.010004の石岡三洋さんの登場です。「チェロとの出会いとそれから」と題して、寄稿いただきました。

しましたが急逝され、約束を果せていないことです。技術的には高校時代からまったく進歩がないので、その技術維持のための練習に明け暮れています(トホホ)。

そんな技術を持たない私でも一人前にハイポジションは使いたい! 格好良く弾きたい!! で、思いついたのが5絃チェロ! A絃の上にE絃を。と考えたのですがガンバ絃を除きE絃は市販されていない(所詮素人の思いつき)。考えたあげく、ギターのエ絃使用。でも4/4フルサイズではギター絃の長さでは足りないことに気づく。3/4では? 辛うじてベグに数回巻ける! で、3/4の中古楽器を購入し、近くの町の総楽器および弓製作家大島恵氏(アニメ「耳をすませば」のモデル)に楽器と5絃用に自作したテールピースを持ち込む。



完成後頂天で弾いていましたが、バッハを奏いてもモーツァルトを奏いてもすべて「湯の街エレジー」に聞こえるのです(涙) やっぱりギター絃ではダメですねえ。それから数ヶ月考えた末、「ないものは作らねば」それで自分の考え得る最良の結成で張っています。※こんな5絃チェロを自分も作りたいと、無謀な考えをお持ちの諸兄姉がいらっやったらご連絡ください。E絃の作り方を教えます。ただし、健康な4/4~3/4チェロ、特に表板に割れ・ヒビのない楽器(一絃増えることに依り相当の力が表板にかかるため)が必要です。

一副作用その1:1絃増えることに依り両端の絃(E・C)を除き、中の三絃では左手の弓がどの絃にあるのか分からなくなる(笑) 一慣れで解決しますが… 一副作用その2: バッハの無伴奏第6番(アクロバット奏法で我々素人を寄せつけなかった)がとても容易く(ちょっとオーバー)弾けます! でもバッハはバッハ、難しいことに変わりありませんが4絃チェロで弾くよりは楽であることは確か。だって私が奏けるんだから…。

第3回1000チェロの準備段階で体調をくずし、急遽中村氏に理事を替えてもらうが、手掛けた神戸以西の公式練習の受けはすべて担当しましたし、当日の少ないパートの応援もしました。本番前日神戸入り、「チェロ三味せんべい」を売っていました(涙)

中越チャリティコンサートには笠岡4名(内1名はボランティアスタッフ)と楽器5台(我々より遠方からの参加者のための2台含む)をこの日のために購入したミニバンで長岡まで。遠かった! 地震の凄さもさることながら、山古志での演奏後の歓迎ぶりに驚きました。

思い起こせば、NPO 立上げの時もそうだったし、中越チャリティのパート決めでも松本理事長の「泣き落とし戦術」に屈した感あり。「理事になる人がいないから…」「1パートを弾く人がいないから…」。ところが現地に行くのと弾ける人がたくさん! で「やられた!!」(笑)

2010年には広島で第4回1000チェロが行なわれることが今年の大分での総会で決まりましたが、広島県で生まれ育った私は複雑な心境です。被災県民としては大変うれしいことですが、国際チェロアンサンブル協会は過去、自然災害のみを対象に活動してまいりました。ですから9・11の折にも理事会で討議を重ねましたが、人為的災害であることからICESとして公式に活動しませんでした。新潟の会員からの投稿をきっかけに話が進んできたと思うのですが、「世界平和」を掲げていても場所がHiroshimaであれば、欧州は認めてくれて米国・全米チェロ協会などの反応はいかがなものか…。

今年のアンサンブルコンテスト(5/18)を節目として、一応現役を引退し、趣味の写真に本腰を入れる決意をしてちょうど1ヵ月目、寺田先生から当原稿の依頼があり、再び音の世界に引き戻されています。